

平成30年度 学校経営計画表

1 学校の現況

次の状況

学校番号	27	学校名	茨城県立佐和高等学校					課程	全日制 (普通科)		学校長名	飛田吉雄				
教頭名	野村和子										事務(室) 長名	岡部久美				
教職員数	教諭	40	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	1	実習教諭	1	事務職員	3	技術職員等	3	計	54
生徒数	小学科	1年			2年		3年		4年		合計		合計クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	103	136	80	160	99	133			282	429	18				

2 目指す学校像

校訓「君の心に聴け」を基盤とした学校づくり
 (1) 平和と社会の正義を重んじ、誠実で自主的な実践力のある人間の育成
 (2) 人格の陶冶と学力の向上に努め、真理を求める創造性豊かな人間の育成
 (3) 文学や芸術を愛し、情操豊かな幅広い教養を身に付けた人間の育成
 (4) 国家や郷土を愛するとともに、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む人間の育成
 (5) 心身の錬磨に努め、強靱な体力と忍耐力を備えた人間の育成

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現 状 分 析	課 題
教 務	- 生徒の多岐にわたる進路希望への対応や、学習に対する興味関心を大切にした教育課程の編成に努めている。 - 授業時間の確保に努め、出張時等の授業振替を励行している。 - 円滑な校務運営のための内規の整備や、学校行事の見直し調整を行っている。 - 情報化による校務の効率化と、学校Webページ等での情報発信を行っている。	- 観点別評価について研究を進める。 - 授業時間の均等化に努める。 - 学校行事をさらに魅力あるものにしていく。 - 学校Webページや携帯サイトの更新を活発に行い、情報発信を推進する。 - 校内LANサーバーの保守点検をする。 - パソコンの計画的配置に努める。 - 統合型公務支援システムの運用を進める。 - 働き方改革の面から、出張時の授業振り替えの目安を検討する。
学習指導	- 大学進学希望者に対して平日と長期休業中に課外を実施している。また、通常の課外に加え、外部講師を招聘した「学習セミナー」を開催し、大学受験に対応できる基礎学力の養成に努めている。 - 多くの生徒は真面目に授業に取り組んでいるが、自学自習に対する意欲や時間は十分とはいえない。	- 生徒自身が、自らの適性を見極め、目指す進路を真剣に考え、学習に取り組むための方策をさらに考える。 - 進路指導部、学年、教科との連携を深めるとともに、生徒一人一人の学習状況を把握して指導の工夫を行う。 - 学習室等の環境整備に努め、生徒の学習意欲をさらに高める。
進路指導	- 生徒の進路希望の実現を期して、一人ひとりにきめ細かな進路指導を進めている。 - 生徒が希望する進路先（大学、短大、専門学校、就職等）への達成率は高いが、安易な進路選択に止まらないように指導している。 - 大学進学においては推薦入試やAO入試での決定率が高いが、国公立大学や中堅私大においても一般試験を受験する生徒への対応を強化している。	- 生徒個々の多様な進路希望に応じた指導を各学年と連携し工夫する。 - 生徒が早期に進路目標を決定し、目標に向かって準備できる協力体制をつくる。 - センター試験及び一般試験で合格できる指導体制を整える。また、推薦で合格した生徒に対しても、一般受験生レベルの学力を身に付けさせる。 - 新テストにも対応できる学力を身に付けさせる。

項目	現 状 分 析	課 題
生徒指導	- 多くの生徒は挨拶がきちんとできる。校則を守ろうという意識も高く、服装や頭髪についても、大きく逸脱した生徒は見られない。しかし、注意を受けないでいると、安易に周囲に流されてしまう者もいる。 - 職員全員の意識の統一を図るとともに、P T Aや地域の協力も得ながら、規範意識の高揚に努力している。	- マナーの向上をより図るために、生徒の内面に訴える手だてをさらに工夫する。 - 生徒会を中心に、生徒自らが規範意識をもてるように指導・助言を行っていくようにする。 - 教育相談担当の教師を配置し、面談やアンケートなどにより、潜在化したいじめがないかどうか気を配る。
特別活動	- 部活動への参加率は約80%で、多くの生徒が毎日熱心に活動に励んでいる。 - 心の教育の一環として、生徒のボランティア活動への参加を積極的に進めており、学校内外で参加する生徒も少なくない。本年度も「全校ボランティアデー」を実施し、生徒全員がボランティアを体験し、ボランティア活動の在り方を考えさせる機会を設ける。	- 生徒が目的意識を持ち意欲ある学校生活を送るために、学校行事や生徒会活動、部活動などへのさらなる積極的参加を促す方策を立てる。 - ボランティア活動を活力ある学校づくりの一つに位置付け、参加率の向上や、活動を通して心の教育を確かなものにするための取り組みを工夫・改善する。

4 中期的目標

生徒の自己実現に資する教育活動
1 生徒一人一人の学力向上と進路希望の実現を目指し、創意を生かした活力に富む学校づくりを目指す。
2 生徒指導の徹底を図るとともに、体験活動、ボランティア活動を積極的に推進し、校訓「君の心に聴け」を基盤とした「心の教育」の充実を図る。
3 特別活動の充実、部活動の活性化を推進し、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、自主・自立の精神に富む生徒の育成を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
家庭学習の定着と授業改善の取り組みにより、「分かる授業」を展開し、言語活動や探求的な学習活動の推進を図り、基礎・基本の定着と学力の更なる向上を目指す。 生徒一人一人の自己実現を目指し、生徒の実態に応じた細やかな進路指導を行う。	- 教職員一人一人が生徒に適した授業内容を精選し、指導方法を工夫する。教職員がアクティブラーニングの視点から組織的に指導法の研究を重ね、「分かる授業」を展開する。 - 生徒が主体的・対話的で深い学びが実現できるように、授業改善を推進する。 - 予習復習等を通し生徒の家庭学習時間を増やしていくよう指導する。 - 進路指導部、学習指導部、各学年の連携を深め組織的な進路指導体制を構築する。 - 進路ガイダンス・進路相談等を適宜実施し、個々に応じたキャリア教育を行う。 - 進学希望者に対する指導の充実を図り、特に大学への進学に力を入れる。 - 就職希望者への早期対応。早期に進路意識をしっかりと身に付ける指導をする。
体験活動・ボランティア活動等を通して「心の教育」の充実を図るとともに、生徒個人にに応じたきめ細やかな生徒指導を行う。	- 教職員全体で、共通認識を持ち、一貫した丁寧な指導を行う。 - 望ましい基本的生活習慣および社会的生活習慣の確立に向けて、高校生としてのマナー・社会のルールの遵守を指導する。挨拶・身だしなみ等の指導を継続する。 - 生徒一人一人に目を配り、いじめを防止し、体罰による指導を排除する。 - 問題行動の早期発見・未然防止に努める。 - 体験活動・ボランティア活動を本校の特色として位置付け、様々な活動・体験を通して、他者理解・思いやりの心の育成に努める。
特別活動の充実・部活動の活性化を推進し、生徒自らが輝く学校づくりに努める。 地域・保護者との交流や連携を図り、情報を公開し学校の更なる活性化に努める。	- 特別活動部を中心に学校全体で、学校行事、部活動、ボランティア等に取り組み、学校の活性化を図る。 - H R活動、生徒会活動を通し、協調と連帯の精神を育む。 - 地域・保護者・異世代との交流を深め、コミュニケーション能力の育成を図る。 - P T A行事のさらなる内容充実を目指し、参加率の向上を図る。